

THE WEEKLY REPORT 2003▶2004



TAKIKAWA

# ROTARY CLUB

第2317回 2207 9月11日(木)



「百合の咲く庭園」 撮影／滝川ロータリー名誉会員 神部弘二

**ロータリーテーマ：手を貸そう**

ROTARY THEME : LEND A HAND

2003~04 国際ロータリー会長 ジョナサン.B.マジリアベ氏

**「変革にチャレンジ」** 林 博 幸 会長

第2316 回例会記録 9月4日(木)

## 副会長挨拶・報告



9月15日は敬老の日であります。これからは高齢化社会となります。健康に留意してお過ごし下さい。

林会長は体調が良くなってから復帰する予定です。山本つよし会員は本日手術で頑張っております。一日も早く両会員がロータリーに復帰する事を望んでおります。本日のプログラムは東志 隆の講演を予定しています。有意義な例会になると思いますのでご期待下さい。

## 幹事報告

1. 芦別・深川RCより会報届く。
2. 先週は移動例会等の出欠表が3件ありましたが、速やかに提出願います。お名前を記入しないで提出された方が数名いらっしゃいましたので各自もう一度ご確認下さい。
3. 9月17日(水)砂川RC合同夜間例会(ガバナー公式訪問)に出席・バス利用される方は、スエヒロ前午後5時30分出発としますので時間厳守をお願いします。
4. ガバナー月信9月号・購読者の各ロッカーへ入れております。
5. 本日午後6時30分よりスエヒロにおきまして、第8回定例理事会を開催致します。役員・理事の方は出席をお願いします。
6. 例会欠席届は必ずご提出を!
7. 札幌コンサート(10月5日)の後援をしております。ロータリー後援。ロータリークラブでチケット販売しています。宜しくお願いします。

## 委員会報告

親睦活動委員会

9月の祝福

職業奉仕委員会

移動例会 9月11日(木)江部乙公民館

野球同好会

22日(金)23日(土)2510地区野球大会報告。1回戦は芦別に勝ち、2回戦で岩見沢に負けました。

## 先週のプログラム

ゲスト卓話

新世代委員会

高木敏行委員長



「講師紹介後委員長挨拶」

本日の例会講師に書家 東志 隆先生をお招き致し卓話を頂きます。

「書と私」講師：東志 隆 様

東志青邨粗描《なんでもない書》の軌跡  
佐藤庫之介(美術評論家)



東志青邨はことし12回目となる個展を開いた(8.21 26、滝川市美術自然史館)。大小、紙・木・陶板・皿・折帖仕立。漢字・詩文・祭伯文稿全臨を含む百点余の作品が、248平方メートルの面積をもつ1階展示室の可動パネルを補いガラスケースを動員して並べられた、70歳を区切る記念展なのであった。

広い入口に立って鳥の目になったそこに届いたのは、右手壁面に紙が目立つ中程度の一群で、その中央に大きな 圓陀地(あとでこれが、この月初めに他界された岳父への鎮魂のつもりで書いた場中最も新しいものだと言われた)。正面に遠目の利く 白 と、全容が僅かに虧けて見える「祭伯文稿」全臨。すぐ左手が木の自装額が目立つ小品群。そのまま鉤の手に折れて、陶板としては大きい2点。いつもの光景だと思いつつも、あらかじめ消せずにあった記念展とする先入観があつてだろう、アモルファスな情趣を拭えず、少し慌てた。

全国的にみても珍しい名を持つ同館は1986年、岳父・少覚史山ら地元の人たちの努力もあつて開館し、このとき常設・上田桑鳩室を設け、ここに少覚所蔵の桑鳩書のかなりが寄贈されていた。その上田桑鳩は、東志の「書」のとば口に立った人。機

縁は引き継がれて1999年、同館企画展「生誕100年記念／書家・上田桑鳩の世界」の実行委員長として開催の衝にあたり、おりから東京・上野の森美術館ほか各地で開かれる桑鳩展と連動するところがあって、同館展覧会ごとの入館者数記録を塗り替えたという。そこでの東志は終始高揚しており、それを隠さないでいた印象が強い。

人はたいてい生涯、自分の中に棲み続ける人を持って生きる。そしてそれは、生れることを自ら選べないのに似て向こうの方から突然やってくる。東志青邨にとってのその人・上田桑鳩とは1955年に出遭った。桑鳩55歳。東志24歳。二人は親子ほど違った。

これより1年前、旭川からの列車を約束した滝川で降りた桑鳩は、市街に住む少覚史山と初対面の挨拶もそこそこに、東滝川にある滝川種羊場(当時)に足を運び、すぐに羊のスケッチを始めて少覚らを驚かし、以後死去する前年の1967年まで毎年候鳥のようにこの地を訪れて、少覚邸を根域に、書作よりも空知川での採石行に日を累ねる端緒をつくる。でも何ゆえの滝川滞留。そして採石一。桑鳩の死は不意に訪れているから、作家としての高揚・充実期である。考えられるのはまず落飾である。それと創造者が、そこにただ在るだけのものと対峙を強いられる、いわば宿業への対応。この二つながらをこの人らしいやり方でやっただけとはいえない。

滝川で初めて出遭ったとき、東志は市内の中学校の新任教師。それを遡る隆少年はひぐと早熟であった。小学生で競書雑誌を自ら購入、競書を始めていたし、滝川西高校では書道部長を務めた。道学芸大学旭川校では美術工芸が専攻であったものの、赤石蘭邦が教える書道教室や研究室についても顔を出していた。まだ三十代の後半にいた赤石は、第5回日本書道美術院展(1951年)において、これは後に語り継がれる「妙法蓮華経如来寿量品第十六」で公募最高賞を受けたのだが、それよりも篤実、身体に沁みいることばで学生達の敬慕を集めていた。東志は赤石から、「書」が筆と紙の間

のものであるより、胸より下のあたりに発する機微を教えられた。

最初の個展は三十代に足を踏み入れたばかりの1964年12月に札幌・大丸ギャラリーで開かれた。全17点。作家の旅立ちを告げるには十分過ぎる内容を備えていた。裏づける資料を捜してみたが適当なものが見当たらないので筆者のものを充てた。が、なにぶんまだ若僧で眼低、核実が届いていないのである。お赦しを得たい。

《...本人が「昨年釧路で丹頂鶴を見てから、鶴が書けなかったら、書をつづる意味がなくなるのではないかと思った」と熱っぽく語っているように、2m×4mの大作を含めて同じヴァリエーションのものが4点。/その 鶴 = 写真 = は、この作家の今におけるモニュメントと言うべく、すべてを出し尽して燃焼している。ただ大きいだけでなく、確実にこの作家によって捉えられた 鶴 のイメージの誕生がある。

70年代後半から80年代にかけて札幌の中学校は荒れた。ことにそれは新設校に酷く、新聞も連日のように紙面のかなりを当てて報道した。

東志は、札幌に移って間もなく管理職になっていてこの衝に当たらなければならなかったし、新設校にも赴任しているから電話一本で夜の市内にも飛び出していった。教育や学校運営の本来のあり方や理念を問われる歪みも噴き出していたところがあり、自分に振り向ける時間がなくなっているのにも耐えねばならなかったようだ。個展発表に限ってみると第5回個展(1980、札幌・画廊環 = この資料に接していないので詳しく触れられない)だけで、以後、10年間発表が止んでいてこれまでの多産ぶりに較べて隔たりの大きかったことに気づく。それと痼疾の喘息が昂じて入院加療に日を重ねた事情がここに加わる。これらの事由を総じていえば、「なんでもない書」を支える部位のかなりが萎縮を強いられたのであり、そこに痙攣までが走ったのである。が、しかし、「なんでもない書」を掴み直すことを措いてここを超える手段が見つからなかったのも確かなのであって、札

幌墨象会展での旺盛な発表や、佐藤大朴が長逝したあとの北海道墨象会をまとめたことなどが実績として挙げられるだろう。

90年代を迎えて発表が活潑さを回復する、と述べるのは精確でない。彫りを深めた展開を見せるからである。それよりも抑えきれない情動が発表させた。魁けとなったものに第6回個展＝「東志青邨書作品展」(1991、アムアートギャラリー・札幌)があり、「北海道の書 / 20人の世界」(同前、北海道立近代美術館)「大泉堅治・東志青邨・中森博文書店」(1992、名店ビルギャラリー・滝川)がある。「－20人の世界」は、作家同士で話しあえる人たちを糾合して小川東洲・中野層翠・中野北溟らで実行委員会を持ち、推されて道内の20人が参加したもので、東志はそこに一圓妙2点。「高野素十句」を発表した。大泉堅治と中森博文。東志が滝川江陵中で教壇に立ったときの最初の生徒で、東志の定年退職を待っていた格好で開いたもの。10点を陳列している。筆者に第6回個展の感想があり(『92札幌芸術文化年鑑』)この時期をとうことができそうなので抽いてみる

密かな願いは適えられた、とおもう。しかし、一つが残ったようだ。それを果たさねばならない。

東志は、札幌市立新川中学校長を最後に永い教職を辞めた。そして同じその年、融雪を待って始められた家の新築が秋の半ばに完工した。陸屋根で総二階建て。定年になって家を新築した一、という珍しくもなるともない光景に見合う、つまり行往坐臥のすべては一階で済まされるらしい仕組み。二階のすべて一ほぼ半分がアトリエで和室・収蔵庫・陳列コーナーなどが付く一が、東志のための空間なのである。

とりわけ、「私」の内深いところで。海の向こうの絵画でも、似たようなところで似たようなことが起きていた。東志の現在

に引きつけて抽くと、これは、ボードレールがコロを擁護して《一般に、できたものは仕上がったものではなく、非常によく仕上がった作品が、ちっともできていないこともあり得る》と言ったという、念仏のように難解で恐いことばにゆき当たる。ボードレールの驥尾に付して少し刺激的に言えば、筆者もまた、思い描いているトライアングルが歪み出すのをこっそり待っているのである。(美術評論家)

## ニコニコBOX

- 高畑 方雄会員 8月28日・初めて卓話させて頂いて。  
鈴木 忠男会員 ロータリーゴルフコンペに入賞して。  
西田 浩二会員 野球大会に二日酔いで参加させてもらって。  
相馬 隆男会員 野球大会・松原2累手の加齢カレイ(華麗)なるプレーに魅せられて。  
小林 一磨会員 2510地区親睦野球大会にて久しぶりの1勝をして。  
米倉 慎一会員 2510地区親睦野球大会に参加できて。

9月25日(木)定時総会・報告  
各自クラブ活動計画書をご持参下さい。  
先週の出席率75%を78%に訂正します。

会長/林 博幸  
幹事/川口 義弘  
編集/クラブ会報委員会

電子メール info@rotary.gr.jp  
ホームページ http://www.rotary.gr.jp/

例会日 ●毎週木曜日 PM12:30  
例会場 ●ホテルスエヒロ  
事務局 ●☎073-0032滝川市明神町2丁目2-16  
ホテルスエヒロ7F TEL(0125)22-3344  
FAX(0125)24-2755



クラブ会報は再生紙を使用しています。